

接触場面のナラティブで語り手の母語話者が行う中断による分割

—受け手の中国人日本語中級学習者のための調整行動として—

夏雨佳(東京外国語大学大学院生) 中井陽子(東京外国語大学)

1. はじめに

日常会話で自身の経験をもとにしたナラティブを語り、相手から共感を得ることで、人間関係構築を図ることがある。だが、日本語母語話者と学習者による接触場面では、母語話者が自身のナラティブを語る際、学習者が受け手として共感を示す等、適切な反応ができない場合もある。こうした場合、学習者が受け手の反応の仕方を知得するだけでなく、母語話者が分かりやすく話す等の調整行動も必要になる(中井, 2012 等)。中井(2012)では、接触場面の初対面会話等での母語話者による調整行動を、語彙・文・発話等の言語レベルだけでなく、会話維持、話題選択、話題放棄等の談話レベルでも分析している。しかし、接触場面でナラティブを語る際に、こうした母語話者の調整行動がどのように行われているかに関する研究は管見の限りない。また、これまでのナラティブの研究は、主に参加者の言語行動に着目したものが多く、会話時の参加者の意識も踏まえて分析するものは少ないため、詳細に分析する必要がある。

そこで本研究では、ナラティブの語り手の母語話者が受け手の中国人日本語中級学習者に自身のナラティブを理解して参加させるために行うナラティブの中断による分割に焦点を当て、その前後に行われる母語話者の調整行動の特徴を分析する。その際、フォローアップ・インタビュー(FUI)によって、ナラティブ参加時の母語話者と学習者が言語・非言語行動を行う理由等、各参加者の意識も探りつつ、より深く分析を行う。これにより、接触場面におけるナラティブの協働構築の特徴を明らかにし、母語話者と学習者のより良い人間関係の構築に寄与することを目指す。

2. ナラティブと話題の先行研究

母語場面のナラティブ研究は、これまで多く見られる(Labov, 1972; 李, 2000 等)。その中で、Labov(1972:359-360)はナラティブを「言語による節の連鎖と実際に起こった出来事の連鎖を整合して過去の経験を再現する1つの方法」(筆者和訳)と定義し、完全に展開されたナラティブの構造には6つの段階があるとしている(表1)。

表1:ナラティブの6段階の定義(Labov1972)

| 導入部(Abstract) | ナラティブの要点を要約する部分。 |
|---------------------------|--|
| 方向付け(Orientation) | 時、場所、登場人物とその行為、状況を明確に示す部分。 |
| 展開部(Complicating action) | 「それからどうしたの」という質問に答える部分。 |
| 結果部(Result or resolution) | 「最終的に何が起きたのか」という質問に答える部分。 |
| 終結部(Coda) | ナラティブの終わりを示す部分と、出来事が語り手に与えた影響を示す部分、出来事の時間から現時点に戻る部分。 |
| 評価(Evaluation) | 語り手が出来事から得たことと、「なぜこのナラティブを語るか」という理由を示す部分。ナラティブのどの部分でも挟み込むことができる。 |



図1:話題の推移の型(南, 1981:93)

なお、実際の日常会話で交わされるナラティブの各段階の中では内容のまとまりをもつ小さな話題がそれぞれ展開されていることが多い。また、ナラティブが中断して少し異なる話題に発展することもある。そのため、各段階と話題の関係を見る必要もある。南(1981:90)は話題を「まとまった意味」から成るものだと定義し、話題の推移の型について分類している(図1)。この話題の推移の型は、ナラティブの各段階の中で展開される話題を考える上で、参考になると言える。

李(2000:8)は物語を「過去に発生した出来事を雑談の中で報告すること」と定義し、物語という活動を語り手と受け手が成り立たせるために行う会話管理の観点から、物語の「開始」「終了」「再開」「持続」で語り手と受け手が行う言語行動の特徴を明らかにしている。具体的には、語り手の言語行動として、物語を開始するための<出来事の結末を先に言い出す><出来事発生当時の気持ちを表す>等、物語を終了するための<出来事の結末を示す><出来事から得た結論を述べる>等、物語を再開するための<受け手の割り込み行動における発話内容を肯定する><物語の続きを思い出そうとしていることを表示する><内容の接続を表示する>等、物語を持続するための<接続表示><注目要求><時間稼ぎ>等があるとしている。

3. 分析方法

本研究では、母語話者 J1 (学部生) が語り手として中国人日本語中級学習者 3 人 (C1, C2, C3) に語るナラティブにおける、J1 の調整行動の特徴を分析する。Labov (1972) と李 (2000) の定義に従い、ナラティブを「日常会話の中で過去の出来事を時間的順序に沿って語る」と定義する。会話参加者 (表 2) は、週に 1 回程度、オンラインで会話している知り合いである。会話開始前に J1 には予め「中国留学中の苦労話」を語ることを依頼しておき、オンラインによる 4 者間の会話データを 30 分程度収集した。その後、各参加者に FUI を行い、会話中の意識、感想を尋ねた。なお、中国人学習者への FUI は中国語で実施した。収集した会話データからナラティブと認定される部分を抽出し、前後の部分を含めた 9 分間を分析対象とした。そして、表 1 の Labov (1972) の定義に従い、ナラティブの段階を認定した。また、特にナラティブの中断の際に展開された別の話題の流れを分析するために、南 (1981) に従い、話題の推移の型を認定した。その後、李 (2000) によるナラティブの語り手の言語行動を参考に、ナラティブの進行上の問題が起こる前後に母語話者が行う言語・非言語行動を「調整行動」として捉え直し、その特徴を分析する。母語話者が調整行動を行う理由としては、例えば、学習者が話の内容を理解できず反応が薄い、母語話者が意図していたナラティブの段階を進められない等が考えられる。なお、李 (2000) の言語行動に当てはまらないものには以下の断片の中に網掛けを付す。

表 2: 会話参加者の背景情報

| 参加者 | 年齢 | 性別 | 身分 | 日本語学習歴 | 留学経験 |
|-----|-----|----|---------------|--------|------|
| J1 | 20代 | 女性 | 学部4年生 (中国語専攻) | — | 中国1年 |
| C1 | 20代 | 女性 | 日本語予備学校受講生 | 10ヶ月 | なし |
| C2 | 20代 | 男性 | 日本語予備学校受講生 | 10ヶ月 | なし |
| C3 | 20代 | 女性 | 日本語予備学校受講生 | 10ヶ月 | なし |

4. ナラティブにおける母語話者の調整行動の分析

以下、母語話者 J1 が語り手としてナラティブを分割して語り、調整行動を行う様子が現れている断片 (1~3) を示し、詳細に分析する。ここでは、J1 が留学中の苦労話として中国で友達を作るのが難しかったことを語るが、途中で C1 が自分達中国人学生が中国で日本人の友達が作れて嬉しかったという話題を話し出す。そのため、J1 は自身の苦労話のナラティブを中断して C1 の話題を受け入れ、その後自身の苦労話のナラティブを再開・分割して話すという調整行動を行っていた。

断片 (1) は、J1 が自分の「中国留学中の苦労話」について導入部、方向付け部で語っている部分である。これは話題の推移で見ると、J1 による【話題 1: 留学中の苦労話宣言】が [新出] し、【話題 2: 中国人の友達を作ること】と C1 による【話題 3: 日本人の友達が作れて嬉しい】の 2 つの話題の [連続: 変化: 発展] の部分である。まず、35 で J1 が「留学の苦労した話をする」と《話題のテーマを宣言する》ことでナラティブの開始を明示する調整行動を行う。そして、36 で C1 があいつちを打った後、J1 が 37, 39 で「一番苦労したこと」は「中国人の友達を作ることでした」と語り、《出来事の結末を先に言い出す》調整行動を行う。だが、40 で 2.0 秒の沈黙が生じ、41 で C1 が「私たちは日本人の友達を作ることが嬉しい」と自分の経験の感想を話す。それに対して、J1 が 42 と 44 であいつち、笑いと共に「私も嬉しいです」と感想を述べ、《受け手の割り込み行動における発話内容を肯定する》という言語・非言語的な調整行動を行う。この部分を FUI で確認したところ、C2 と C3 は苦労という言葉の意味が分からず、すぐ反応できなかったため、40 で沈黙が生じたことが分かった。また、41 で C1 が自分の体験の感想を述べたのは J1 が長いナラティブを話そうとしていることを理解しておらず、関連した自分のことを話そうとしたからだという。これに対して、J1 は自分が話した内容についてのコメントではないようだが、反応してくれたことはありがたく、このまま話し続けても良いと感じたという。このように、J1 は、ナラティブの方向付け部で C1 が別の話題に発展させたことを受容し、自身のナラティブを中断し、分割して語ろうとしていた。

断片 (1) 【話題 1: 留学中の苦労話宣言】 → 【話題 2: 中国人の友達を作ること】 → 【話題 3: 日本人の友達が作れて嬉しい】

| 話題の推移 | ナラティブの段階 | 発話番号 | 発話例 | 母語話者の調整行動 |
|------------------------|----------|------|---|---------------|
| 話題 1 断絶: 新出 | 導入部 | 35 | J1 じゃあ今日は、トピックとして一私の留学の苦労した話を、するということなので、(.)していきます//ねー。 | 話題のテーマを宣言する |
| | | 36 | C1 あ、はい、わ、はい。 | |
| 話題 2 連続: 変化 (発展) | 方向付け部 | 37 | J1 私//去年一、一年留学してたんですけど、 | 出来事の結末を先に言い出す |
| | | 38 | C1 いいです。 | |
| | | 39 | J1 その中で、一番苦労したことといえば、中国人の、友達を作ることでした。 | |
| | | 40 | - (2.0) | |
| 話題 3 連続: 変化 (発展) | 中断 | 41 | C1 はい、私たちは、うん今日、うん、ああ、去年は、えー、日本語を一年に、え、勉強し、勉強し、て、んー、日本人の、あ、友達を、友達も作ることが、たいへん、大変うれしいです//J1 さん、J1 さん。 | |
| | | 42 | J1 あっ、 | |
| | | 43 | C1 と、一緒に会話をすれ、んー、会話をすることは、んー、嬉しいです。 | |
| | | 44 | J1 あー、私も嬉しいです。{笑い} | |

断片(2)は、J1が苦労話を再開し、その展開部、結果部、評価を語る部分である。これを話題の推移で見ると、J1の留学中の【話題4:中国語クラスで中国人と話せない】に【復帰】し、さらに【話題5:日本語予備学校のお手伝い】に【連続:変化:発展】して、C1による【話題6:日本人が助けてくれて嬉しい】に【連続:変化:発展】した部分である。まず、48でJ1が「なんか」と発話して、《物語の続きを思い出そうとしていることを表示する》ことでナラティブを再開し、48、50で詳細に語っている。それに対して、C1とC3がそれぞれ49と51で頷きとあいづちを行っている。その後、J1が52で「なんですけど」という《接続表示》を使ってナラティブの結果部と評価を語り続ける。しかし、53で2.0秒の沈黙があり、その後C1が「いいですね」とコメントする。そして、55、57でC1が再び自分のJ1のナラティブと似たような話をしている。56でJ1があいづちを打って、58で自分の感想を述べ、《受け手の割り込み行動における発話内容を肯定する》という調整行動を行う。この部分をFUIで確認したところ、C1は「J1の話聞いて、自分達も日本人留学生からたくさん助けてもらったことを伝えたかった」ため、55、57でそのことを言ったという。それに対して、FUIでJ1はC1が自分の話を始めたため、「自分のナラティブのまだ序盤だったが、最後に伝えたかったことだったので、とてもいい流れだと思った」と述べていた。

断片(2) 【話題4:中国語クラスで中国人と話せない】→【話題5:日本語予備学校のお手伝い】→【話題6:日本人が助けてくれて嬉しい】

| 話題の推移 | ナラティブの段階 | 発話番号 | 発話例 | 母語話者の調整行動 |
|------------------------|------------|------|--|-------------------------|
| 【話題4】 連続:変化 (復帰) | 再開— 展開部 | 48 | J1 え、なんか、私一、の行ったた大学で、中国語の、私は中国語を勉強するために、大学、留学したので、あの一、学校のなかで、外国人しかいませんでした。 | 物語の続きを思い出そうとしていることを表示する |
| | | 49 | C1 {うなずき} | |
| | | 50 | J1 授業の中に、外国人しか、いなかったの、中国人の方と会話するきっかけが、ほぼありませんでした。 | |
| | | 51 | C3 うん | |
| 【話題5】 連続:変化 (発展) | 結果部 評価 | 52 | J1 なんですけど、途中から、えっと、皆さんが行っていた日本語予備学校で、お手伝いのできるようになったので、とても、いいきっかけでした。私も、すごい嬉しかったです。 | 接続表示 |
| | | 53 | C1 (2.0)あー、いいですね/ー | |
| | | 54 | J1 はい。 | |
| 【話題6】 連続:変化 (発展) | 中断 | 55 | C1 あ、私達も予備学校で日本人、日本人の学生、から、ん一、いろいろな、あ、お手伝いをもらいまし、ん一、もらいました | |
| | | 56 | J1 あっ、そうなん//ですね。 | 受け手の割り込み行動における発話内容を肯定する |
| | | 57 | C1 う、はい、日本語が、だんだん上手になります、なります。 | |
| | | 58 | J1 あっ、本当ですか、ちょっとでも、助けになれば、私も嬉しいです。 | 受け手の割り込み行動における発話内容を肯定する |
| | | 59 | C1 //はい | |

断片(3)はJ1のナラティブが中断された後、J1がナラティブを分割し、学習者3人に質問を投げて意見を話させた後、ナラティブを再開し、結果部と終結部を語る部分である。これは話題の推移で見ると、J1による【話題7:外国人に突然話しかけられたら】が【新出】した後、J1の【話題8:中国人と仲良くなれなかった】という「苦労話」と関連付けた話題が【再出】し、【話題9:日本人も中国人も同じ】に【連続:変化:発展】した部分である。ここでは、断片(2)の55-59でJ1のナラティブが中断された後、60、62でJ1が学習者3人に「外国人から話しかけられたらどう思いますか」と《相手に質問を投げて話題を提供させる》という調整行動を行う。この部分についてJ1はFUIで、「自分の苦労話を話していくきっかけを作るために質問を投げかけた」と述べていた。つまり、J1が学習者を会話に参加させるため、自身のナラティブの話題放棄をし、少し異なる話題選択を行って、会話維持していると言える。そして、各学習者に意見を話させた後、122でJ1が「なんか」と発話して《物語の続きを思い出そうとしていることを表示する》という調整行動を行い、自分の苦労話の結果部を再開したが、123でC1のみ頷きをする。さらに、124、125でJ1が中国人に話しかけても仲良くなれなかったことを語るが、126でまた2.0秒の沈黙が生じる。その後、J1が127で自分の感想を述べるが、128で再び2.0秒の沈黙が見られたため、129でJ1が出来事から得た結論を話す(終結部)。ここで、J1による《沈黙が生じた時に自分で感想を述べて話をまとめる》《出来事から得た結論を述べる》という調整行動が見られる。その後130でC1が自分の感想を述べている。ただこの感想はJ1が【話題8】で語ったことと直接関係していないように見えるが、131でJ1がうなずき、《自分が話した内容を相手が理解できなかったことを許容する》という非言語的な調整行動を行っている。つまり、ここではJ1が会話維持を行うために、自身で感想や結論を述べ、うなずいていたと言える。この部分についてJ1はFUIで、「皆さんが意味を分らなかつたかなと不安を感じた」と述べていた。一方、C1は「まだ母語話者のように良いタイミングで反応できない」、C2は「J1が続けて語ると思ったので反応をしなかつた」、C3は「意味をきちんと理解できなかったので反応の仕方が分らなかつた」ため、沈黙になったと述べていた。また、129でJ1が結論を述べたのは、「沈黙になると学習者がまた違う話題を提案してしまうかもしれないから何とかその話について話そうとした」からだという。そして、130でC1が述べた感想がJ1のナラティブと直接関係していなかつたため、J1は「今した話は伝わっていなかつた」と気づいた」と述べていた。

断片(3) 【話題7:外国人に突然話しかけられたら】→【話題8:中国人と仲良くなれなかった】→【話題9:日本人も中国人も同じ】

| 話題の推移 | ナラティブの段階 | 発話番号 | 発話例 | 母語話者の調整行動 |
|------------------------|------------|------|--|-----------------------------|
| 【話題7】 断絶:新出 | 中断 | 60 | J1 あと一、一つ、質問があるんですけど、 | 相手に質問を投げて話題を提供させる |
| | | 61 | C1 え、はい、どうぞ。 | |
| | | 62 | J1 皆さんが、中国で一、生活して一、突然一、外国人から一、話しかけられたら一、どう思いますか一。 | |
| | | 63 | J1 C1//さん、どう思いますか、 (以下中略) | |
| 【話題8】 断絶:再出 | 再開一 結果部 | 122 | J1 なんか、私は、留学中に、中国人の友達ができなかったので、あの一、学生に、突然話しかけに行って、 | 物語の続きを思い出そうとしていることを表示する |
| | | 123 | C1 {うなずき} | |
| | | 124 | J1 あの、中国語を話したりしていました。 | |
| | | 125 | J1 だけど、その、話しかけた、(.)その、中国人の方は、すごい、驚いていて、緊張していて、あまり、仲良くなれませんでした。 | |
| | | 126 | - (2.0) | 沈黙が生じた時に自分で感想を述べて話をまとめる |
| | | 127 | J1 なので、そう すごい大変だったな一っていう思いがあります。 | |
| | | 128 | - (2.0) | |
| 【話題9】 連続:変化 (発展) | 終結部 | 129 | J1 だけど、日本人も同じなので、今考えれば、やっぱりみんな緊張しますよね | 出来事から得た結論を述べる |
| | | 130 | C1 (1.5)うーん、はじめ、は、うーん、みんな、あー、みんな多分、ん、緊張して一、え、緊張しています。でも、ん一、たくさん会話をすれば、え一、だんだん慣れて、え、なる、慣れる、に、ようになります。 | |
| | | 131 | J1 {うなずく} | 自分が話した内容を相手が理解できなかったことを許容する |

5. 考察と結論（日本語教育への示唆）

以上、今回収集した接触場面のナラティブには2回の中断が見られた。そして2回の中断とも母語話者J1の「苦労話」の途中で学習者が割り込み、自分の似たような経験・感想を述べたことが原因になっていた。それは、学習者にとって母語話者が語る長いナラティブの構造を把握し、適切な反応をすることが難しいからだと言える。だが、J1は《受け手の割り込み行動における発話内容を肯定する》、《相手に質問を投げて話題を提供させる》等の調整行動を行い、自分のナラティブを分割して語っていた。さらに、ナラティブの結果部で、J1は自分の「苦労話」から得た感想を述べたが、学習者3人は日本語がよく理解できなかったため、受け手としての共感等を示す発話ができず、沈黙が生じた。そこで、J1は《沈黙が生じた時に自分で感想を述べて話をまとめる》という調整行動をした。最後に終結部で、J1が自ら《出来事から得た結論を述べる》ことに対して、学習者がナラティブと直接関連しない感想を述べたので、J1は《自分の話した内容を相手が理解できなかったことを許容する》ことで、自らナラティブを終了させる調整行動を行っていた。つまり、李(2000)による母語話者の言語行動のほか、本研究では母語話者J1が語り手として学習者のために行った《話題のテーマを宣言する》、《相手に質問を投げて話題を提供させる》、《沈黙が生じた時に自分で感想を述べて話をまとめる》、《自分が話した内容を相手が理解できなかったことを許容する》という4つの調整行動が新たに見られた。さらに、言語行動レベルだけでなく、話題の流れから見ると、J1が学習者達の日本語理解と会話への参加を図りながら、ナラティブを2回中断・分割して語っていた。ここから、J1は会話維持、話題選択、話題放棄という談話レベルの調整行動を行っていたと言える。このように、接触場面では、学習者の日本語の理解力不足のため、母語話者が長いナラティブを語る事が難しい場合がある。しかし、母語話者が一つのナラティブを中断して分割しながら語ることによって、学習者に理解する時間を与えたり、発話させたりすることができると考えられる。こうした調整行動は、母語話者が学習者にナラティブを語る際に必要なことであり、ナラティブを共に構築しつつ人間関係を作っていく上で重要であると言える。

謝辞 本研究は、JSPS 科研費 19K00702 の成果の一部である。本研究にご協力くださった皆様にお礼申し上げます。

参考文献

- 中井陽子(2012). インターアクション能力を育てる日本語の会話教育 ひつじ書房
 南不二男(1981). 日常会話の話題の推移:松江テキストを資料として藤原与一先生古稀御健寿祝賀論集刊行委員会(編) 藤原与一先生古稀記念論集方言学論叢 I 方言研究の推進 三省堂, 87-112.
 李麗燕(2000). 日本語母語話者の雑談における「物語」の研究—会話管理の観点から— くろしお出版.
 Labov, W. (1972). The transformation of experience in narrative syntax. *Language in the inner city*. 354-396.